

開 催 記 録

(審査委員会)

1 日 時 平成 27 年 12 月 21 日 (月) 10:00 ~11:30

2 場 所 県庁 10 階 1008 会議室

3 協議事項

(1) 平成 26 年度運用実績について

(2) 平成 27 年度運用状況について

4 協議結果

福井県庁環境マネジメントシステムの運用について、以下のような議論があった。

(1) 平成 26 年度運用実績について

- コピー用紙使用量の削減について、福井大学では、100人程度が集まる教授会を開催する際、資料を配布していない。出席者には、事前にメールで資料を送付し、当日は各自が持参するパソコンで資料を閲覧して会議を行っているが、県庁でも検討してはどうか。
- 削減に向けた取組みを促す方法としては、2つあり、1つは事の重大性を伝えること、2つ目は良い取組みを公開し評価すること。優良所属の不燃ごみ減量の取組みは、マンパワーが感じられてとてもいいので、啓蒙して行ってほしい。
- 空調等燃料使用量は、施設の改修や増設があったりすると増えるため、絶対量を減らすことは難しい。このため、床面積当たりで評価するなど、原単位評価に切り替えることを検討していくと良い。

(2) 平成 27 年度運用状況について

- 各項目の使用実績を金額換算し、見える化することについて、単価が変動すると削減額が比較しにくいいため、固定すると良い。福井大学では、環境マネジメントシステムの長期計画の中で基準年を設定し、基準年の単価を固定して使用している。
- 外部監査について、対象項目だけでなく踏み込んで悪い所を探すことも必要。次回は、事業系大規模所属にも監査にいくと良い。
- ガソリン使用量の削減については、エコドライブの実施の他にも、訪問先への効率的な移動を心掛けることも有効。
- A重油を使用するデメリットとして、河川流出のリスクがある（古い設備の場合地下に浸透する危険性が高い）ため水質汚濁防止法の規制施設に該当することや、メチルナフタレンを含有するためPRTTR法に該当することなどがあるため、適切な管理が必要となる。県のリスク（事故時の対応）を軽減するという観点からも環境配慮型設備に切り替えるという視点は重要。